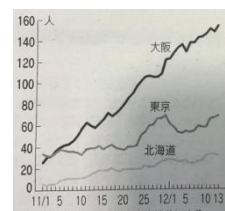
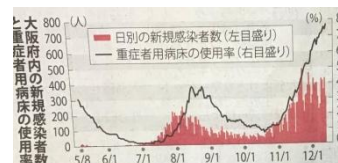


大阪感染「高止まり」

写真は日本経済新聞 12 月 15 日朝刊。大阪の重症患者の増加は東京・北海道に比べて深刻。府内の重症者は 9 日時点で人口 10 万人あたり約 2.4 人。東京は約 1.9 人、北海道は約 0.4 人で、大阪が突出している。



同日の毎日新聞によると、14 日に開かれた大阪府の新型コロナウイルス対策本部会議では、新規感染者数、入院患者数とも依然として「高止まり」の状況にあることが確認



された。府は、感染を抑止できなければ「次の感染拡大の波に対応できない恐れがある」と医療崩壊の可能性を示唆。今後も重症者は増える見通しで、医療現場や専門家からはさらなる対策の強化を求める声が上がった。

有識者は、営業時間短縮要請を当初地区限定で運用したことに厳しい評価を下した。関西福祉大の勝田吉彰教授は、「テレビのインタビューに『ここは閉店なので天王寺に向かう』などと答える人がおり、(施策に) 穴が空いているのは実感されていた」と指摘。吉田耕一郎・近畿大教授は「最初から大阪市全域でやるべきだった。強力な対策を一気に打ち出さないと人の心に響かない」と批判した。

吉田教授は「経済対策は重要だが、患者を減らすためには地域を限定して緊急事態宣言を出すことも必要ではないか」と述べ、「大阪モデルの整備も必要だが、今やるべきは新規患者数を減らす対策を強力に打ち出すこと。これまでも都合のいいように基準を変更したかに見えることがあった。本当に安全になるまでは気を緩めず対応してほしい」と要望した。

新型コロナウイルスの感染状況や自粛要請などの解除を判断する独自基準「大阪モデル」について、大阪府は 14 日の対策本部会議で、点灯中で非常事態を示す「赤信号」を解除しやすくする基準を新設した。重症病床使用率が 7 日連続で 60%未満になれば、警戒度が 1 段階下がる「黄信号」への移行が可能になった。府がモデルの基準を修正するのは 4 回目になる。

現在の状況	指標	「赤」に移行時		
		「黄」に移行時	「緑」に移行時	14日の状況
「大阪モデル」に基づく赤信号の解除基準と	① 新規の感染経路不明者数	—	10人未満	170.43人
	② 直近7日間の人口10万人当たりの新規感染者数	—	0.5人未満	26.96人
	③ 重症病床使用率	7日連続で60%未満	60%未満	75.7%

大阪モデルは「赤・黄・緑」の 3 段階に分類。最も深刻な赤信号の解除は「重症病床使用率が 60%未満」など 3 基準を満たすことが条件で、感染収束を意味する「緑信号」への移行しか想定されていなかった。3 基準に対する数値は全て大幅に上回り、解除が見通せない状況が続いていた。

府は会議で今後の感染状況のシミュレーションを公表。新基準に基づけば 1 月上旬に黄信号に移行する見通しを示した。吉村洋文知事は赤信号の点灯が続けば府民の危機感が薄れるとして、「メリハリは重要だ」と修正理由を説明した。

(2020 年 12 月 16 日)